

今年には希望がもてる年に 大幅賃上げで生活の改善を

新しい年を迎えました。昨年を振り返りますと、ロシアのウクライナ侵略、新型コロナウイルスで亡くなられた方は5万人以上、円安の影響等による異常な物価高、賃金は先進国で最低を更新、郵政も賃上げなしで実質賃金は下がったままです。数年前から「日本はもはや後進国」と言われていますが、このようなことを言われないようにするためにも労働組合の頑張り、郵政ユニオンの奮闘が求められます。

今年も値上げが

昨年、食品等の値上げは2万品目を超えました。食生活でなくてはならない物が値上げされたことは痛手です。この物価高で4人家族は年間の負担は約13万円を超えます。新しい年になっても7000品目が予定されており、中には再値上げ商品（山崎製パン等）も数多くあります。

郵政労働者の声

Aさんは「子どもの病気で通院していて大変な金額になっている。しかも、今の物価高に見合った賃上げがされていないから、どうやって生活していけばいいのか。日々の生活のやりくりで将来の生活をみる事ができない」
Bさんは「一日二食の生活が当たり前になっている

し、基本的にお金を使わない生活をしている。アパート代や光熱費がかかるので最低限度の生活を送るようになっていく。だからスーパーにいったっていろんな商品を買っても、自分に必要な物だけを買って他の商品は見ないようにしている」等の声があがっています。

大幅賃上げ、

賃金底上げを

昨年は一般職と地域基幹職の若年層に1000円引き上げられました。しかし、大半の正社員は賃上げなし、非正規社員の郵政最賃の引き上げもありませんでした。今年の春闘では生活を改善していくために大幅賃上げ、底上げを勝ち取っていきこう。そして、今年こそ希望がもてる年にしていきましょう。

郵政20条裁判の日程

- 2月 9日（木）郵政20条追加訴訟
東京地裁709号法廷14時30分
- 3月 6日（月）郵政20条集団訴訟
東京地裁510号法廷16時

